

災害の記憶と記録を探しだし 継承する防災教育

提言I

「災害について継承する防災教育が
災害対策の要のひとつ」

学校での防災教育の現状から考える

学校安全の意義

■ 三段階の危機管理に対応した安全管理と安全教育

安全な環境を整備し、事件・事故災害の発生を未然に防ぐ

事前の危機管理

事件・事故災害の発生時に適切にかつ迅速に対処し、被害を最小限に抑える

発生時の危機管理

危機が一旦収まった後、心のケアや授業再開など通常の生活の再開を図るとともに再発の防止を図る

事後の危機管理

■ 学校安全の三領域

生活安全 → 日常生活で起こる事件・事故災害、誘拐や傷害などの犯罪

交通安全 → 様々な交通場面における危険と安全

災害安全 → 地震、津波、火山活動、風水(雪)害等や火災、原子力災害

学校における安全の取組

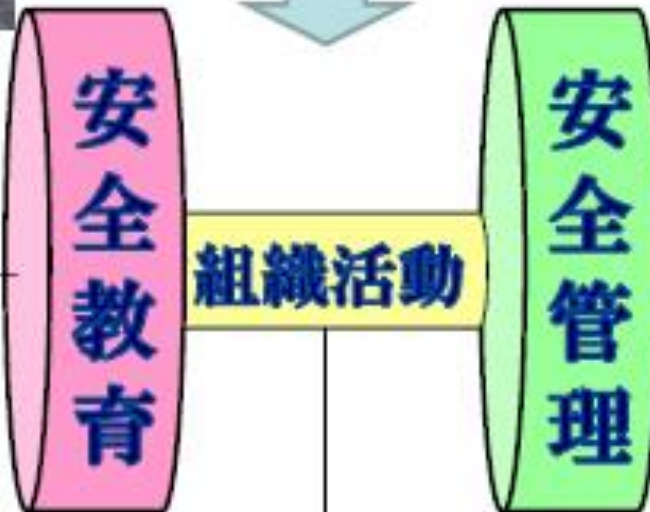
学校安全計画の策定・実施を通じて、児童生徒等が自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するとともに、児童生徒等の安全を確保するための環境を整えることをねらいとしている



学校安全計画
(学校保健安全法第27条に基づく)



・保健体育科、社会科、理科、生活科、技術・家庭科、総合的な学習の時間、特別活動や個別指導等 における安全に関する指導 等



・安全点検の実施
(学習環境の安全点検、避難経路の確認等)
・危険等発生時対処要領の作成と訓練の実施
(各種災害における安全措置、不審者侵入時の対応等) 等



校内の協力体制・研修
家庭及び地域社会との連携

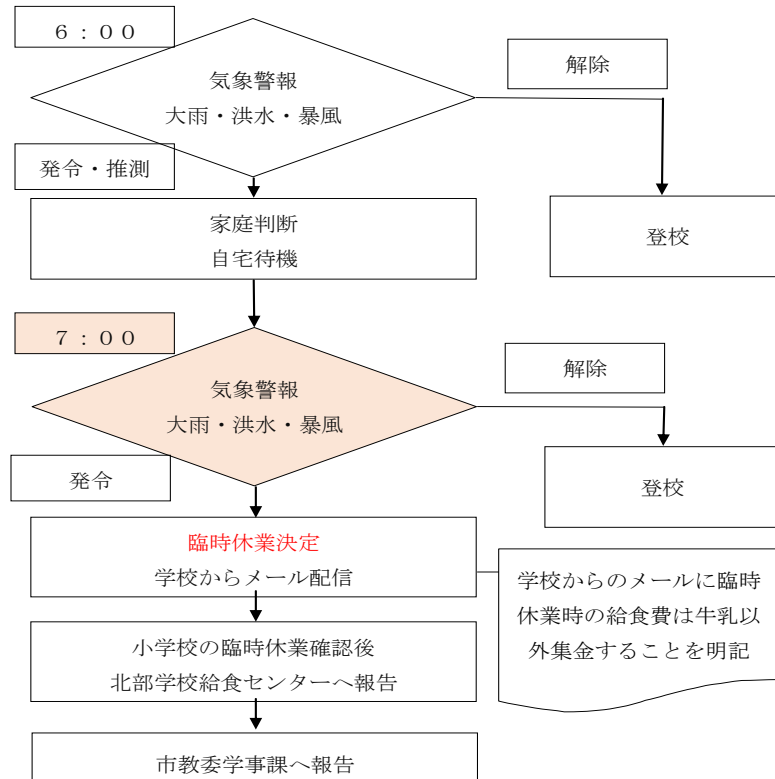


災害への対処 ～危機管理マニュアル～

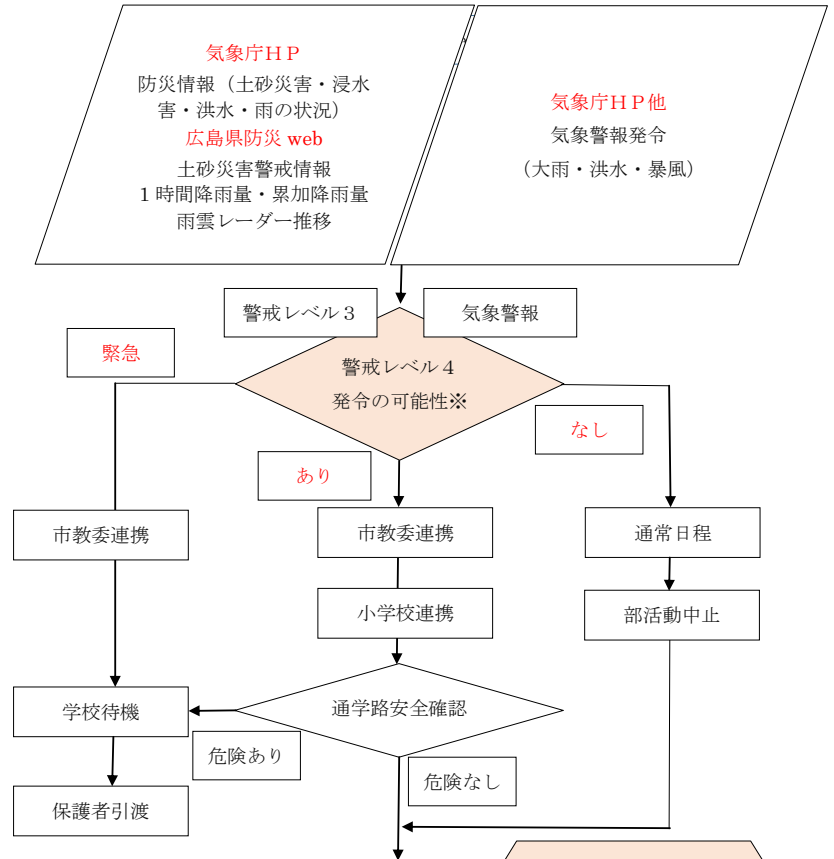
1 気象警報発令時の対応マニュアル

東広島市立豊栄中学校

1 登校前判断



2 登校後判断



災害の発生に備え，教職員の役割分担や責任を
明確にし，組織での対応ができるように

発達の段階に応じた防災教育



学校防災のための参考資料
「生きる力」を育む防災教育の展開
(平成25年3月)

災害に適切に対応する能力の基礎を培う

- ア 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。 **【知識、思考、判断】**
- イ 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。 **【危険予測、主体的な行動】**
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭ひ地域社会の安全活動に邁んで参加・協力し、貢献できるようにする。 **【社会貢献、支援者の基礎】**

高等学校段階の目標

安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒

中学校段階の目標

日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒

小学校段階の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに他の人々の安全にも気配りできる児童

幼稚園段階の目標

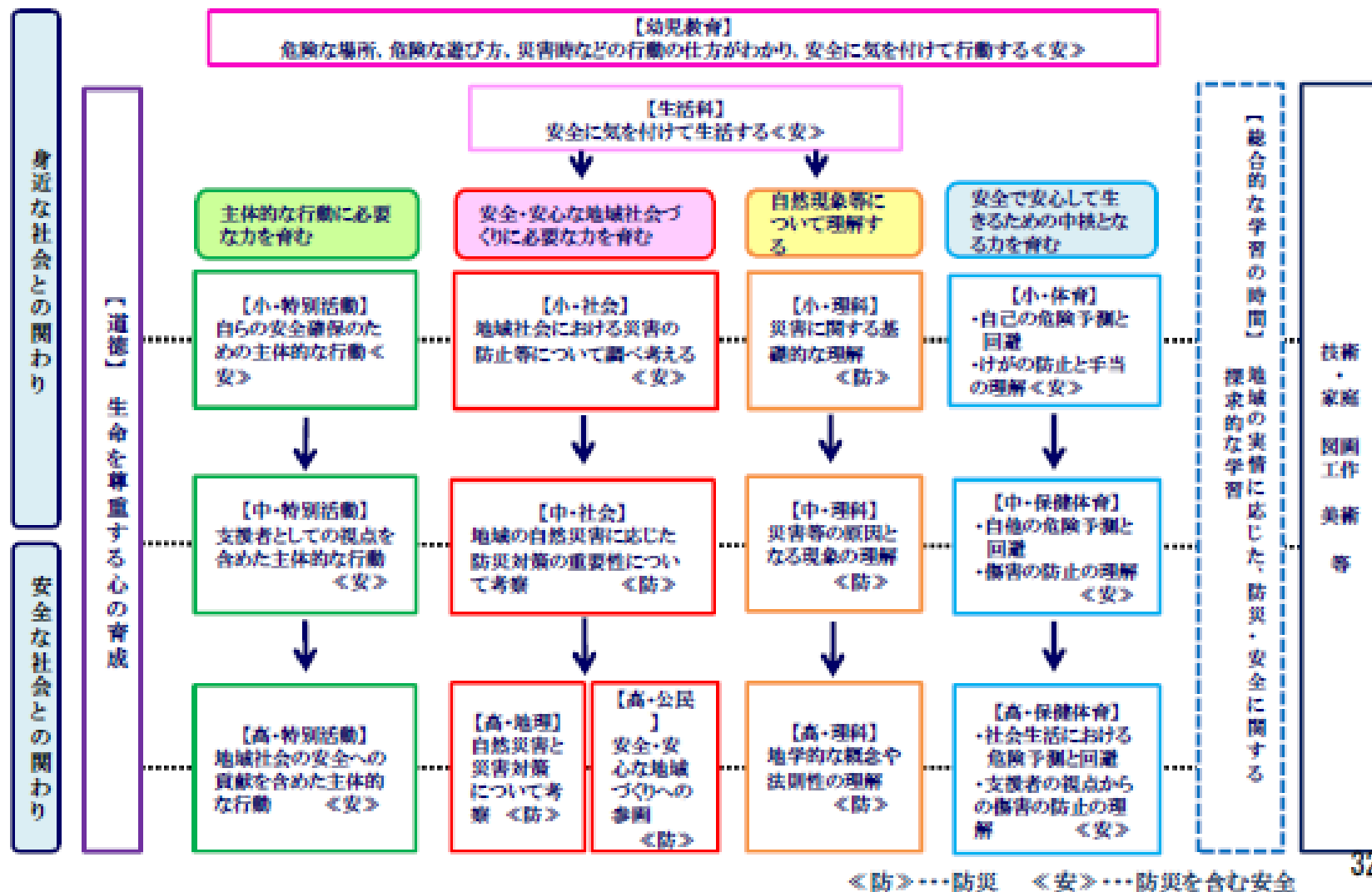
安全に生活し、緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて素早く行動できる幼児

障害のある児童生徒等については、上記のほか、障害の状態、発達の段階、特性及び地域の実情に応じて危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。

児童生徒に育成すべき資質能力の整理表

幼稚園	危険な場所や事物が分かり、落ち着いて指示を受けて素早く行動できる。
小学校 (低学年)	近くの大人の指示に従うなど適切な行動ができる。
小学校 (中学年)	災害の時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができる。
小学校 (高学年)	日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるとともに、自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りができる。
中学校	地域の過去の災害や他の地域の災害例から危険を理解し、災害への日常の備えや的確な避難行動ができる。また、ボランティア活動の大切さについて理解を深める。

教科等横断的な視点から教育課程を編成



教科における学習～5年理科～

・ 災害に関する基礎的な理解

3 わたしたちのくらしと災害

雨がふり続いたり、台風などで大雨がふったりすると、川の水がふえて、災害が起き、わたしたちのくらしにえいきょうをおよぼすことがあります。川の水による災害から生命を守るために、わたしたちに何ができるでしょうか。



考えよう

大雨などで川の水がふえることによって、どのような災害が起きるか考え、話し合みましょう。

- ① 下の絵を見て、それぞれ、どのようなきげんがありそうだと考えられるだろうか。
- ② 自分たちが住んでいる地いきて、大雨によって川の水がふえたとき、どのような災害が起きると考えられるだろうか。

理科のミカタ

大雨などによって、川の水がふえたとき、どのような場所に、どのようなきげんがあるのかな。



使い方や見られる内容は、180ページを見よう。



大雨でふえた水によってこわされた堤防
[神奈川県 相模原市 相模川 2007年]



川の水がふえて、こう水が起きているようす
[福岡県 藤川市 矢部川 2012年]

西日本豪雨災害の経験から

図書館での防災&食育イベント「学ぼう！防災食」の企画

磯松中学校図書館 担当

1 目的

図書館と栄養教諭・大重千織先生との共同で防災&食育教育を通じて生徒の防災意識と「知っている」「見たことがある」という経験値を高めるために、「防災食」の実物や関連図書の展示と防災食調理実演のイベントを企画します。

昨年7月の豪雨災害では本校校区内でも床上浸水等の被害を受けました。本校は災害救助の拠点(自衛隊駐車場)および避難所としての役割を持ち、その頻度も他地区より高いです。また東日本大震災でも災害時の中学生の役割は大きかったと言われていませ。地域を支え、さらに次世代を育てる大人へとなる本校生徒への防災教育を、学校図書館からも支援いたします。

さらに本校だけでなく全国で取り組みやすい事例となるよう記録し、ホームページ等で発信します。

2 実施期間

【図書・防災食の展示】令和元年9月2日(月)~13日(金)

【防災食調理実演】①令和元年9月11日(水) 12:20~40(給食配膳時間)

②令和元年9月12日(木) 12:20~40(給食配膳時間)

3 実施場所

磯松中学校図書館

4 実施内容

【図書・防災食の展示】防災食(カンパン・マジックライスなど)と関連図書

【防災食調理実演(案)】

・1日目 「お湯ぼちや」調理法 “ご飯を炊く”

①ポリ袋にお米と水を入れ袋を結ぶ。

②なべに水を入れ、①の袋を入れて加熱調理。なべのお湯は繰り返し使用可。

・2日目 その他の調理法と非常食の紹介

①加熱不要のレシピ、炊飯器や電気ポットでの調理を紹介

②カンパンやマジックライスなど非常食の紹介と試食。

③新聞紙で食器を作る。

【取り組みの発信】図書館通信および学校ホームページでイベントの報告

5 実施方法

① 4時間目に調理完成品を準備する。(調理時間35分以上のため)

② 調理方法を栄養教諭と司書が実演する。(完成品は、事前に準備したもの)

③ 当日給食配膳時間中の貸出はなし。13時からの昼休憩で貸出対応。

6 準備物

	品名(実演用)		品名(展示用)◎:市教委より借受済
①	ポリ袋	⑦	カンパン
②	電磁調理器	⑧	◎マジックライス(アルファ化米)
③	なべ	⑨	◎長期保存用飲料水
④	皿	⑩	◎ほか展示用災害食
⑤	無洗米	⑪	新聞紙(簡易食器作り用)
⑥	水		

以上

教員から取組を行おうという声が出された

教員自身が、防災の取組の必要性を認識



全教職員が連携し
身近な場面から防災に
関する取組を工夫





生徒にとっては
できそうな取組は何か
を考える機会に



大学との連携による取組



防災ビデオ撮影風景 令和元年11月



避難体験VR



中国新聞 令和元年6月19日 朝刊より

身近に起こった災害の経験をもとに、
災害が起こった際の対処法などを教育活
動に取り入れる動きは広がっているが・・・

コロナ禍における取組

広域交流型 オンライン社会科地域学習



広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）と東広島市教育委員会が連携し、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習を実施。

デジタルコンテンツの活用



事前・事後の学習では
東広島市地域学習デジタルコンテンツ
(通称「のん太の学び場」)を活用します。

学校同士の協働による学び



複数の学校とついに
フィールドと対話しながら課題に取り組みます
大学院生がICT活用をサポートします

手厚いサポート体制



市内各地の小学校がつながって
地域学習を行うことで…
①多様性と共通性を理解します
②自然と社会をリアルに捉えます
③協働の知を生み出します

質問・発表
課題提示・情報提供

市内9町の小学校を結ぶ
オンライン地域学習



質問・発表
單元構想・学習支援

教育委員会と大学が連携して
地域学習をつくることで
①深い学びをモデル化します
②児童と先生の学びを支援します
③ICTを効果的に活用します

フィールドとの対話



各学校の子どもや先生の要望を受けて
現地のライブ動画を流したり
地域の方々と双方向で対話したりします

大学教員・大学院生の参画

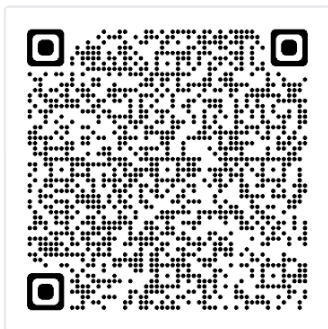


最新の研究成果を活かして
大学で授業展開をコーディネートしたり
授業開発のお手伝いをしたりします

運営の補助

さい害から身を守る ーさい害でキケンなところ、さい害のサインをさがそう!ー

東広島市内小学校8校13学級（郷田、原、小谷、豊栄、入野、風早、高屋西、御菌宇
（384名）が参加



←広島大学教育ビジョンセンターHP



広島大学にて授業をする様子（草原先生）

2021年9月期第1時間目【広域交流型オンライン社会科地域学習】

2021年9月15日(水)



広域交流型 オンライン社会科地域学習

本日のテーマは
さい害から身を守る!

東広島市には
どんなキケンがあるのか

オンラインで
双方向型の学習
を展開



郷田小学校 4-1さん

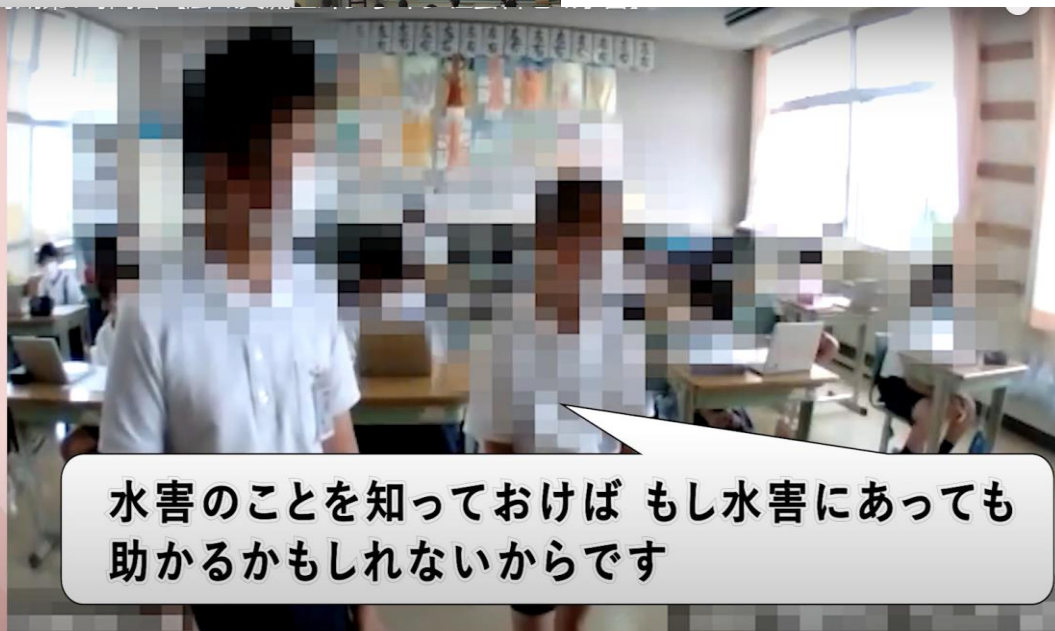
東広島市には
どんなキケンがあるのか

東広島市で一番多い さい害は何ですか？



子供たちの 問いを解決する 学習のながれ

東広島市には
どんなキケンがあるのか



水害のことを知っておけば もし水害にあっても
助かるかもしれないからです

特色

特色

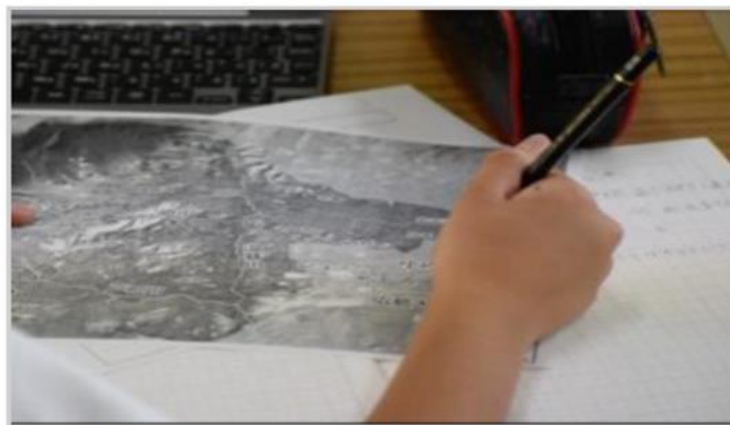
現地からの中継や
保存動画の視聴な
ど身近に感じる工夫



ドローンを用いた土石流現場の観察



土石流の被害を伝える様子（岩佐さん）



災害のおこるところを予想する生徒



教師からの発問に悩む児童

<教員の声>

- ・学校だけでは準備できない様々な素材を使って、子供たちと災害から身を守ることの大切さについて考えることができた。
- ・子供たちの疑問に答える形で授業が進み、問いをもちながら考える子供たちの姿が印象的だった。

<子供たちの声>

- ・クイズがあったり、ドローンの映像があったりして、今まで知らなかったことを楽しく学ぶことができた。
- ・自分のまわりにもたくさん災害の危険があることがわかった。
- ・おうちの人にも学んだことを伝えたい。

今後の取組について

全ての子供たちが、自らの安全を確保し、命を守る行動ができるよう、主体的に考え、行動ができる資質・能力を育てていきたい。

→的確な思考・判断に基づく意志決定や行動選択ができるようにするための教材開発。

→より実効性のある取組にしていくための地域の実情に応じた教育プログラムの開発。

提言2

「防災教育と楽しい地域学習」

- ・オンライン地域学習は有効では
- ・ICTの有効活用により, 防災学習の幅は広がる?
- ・大がかりな授業準備は難しいが・・・
- ・大学との連携により, 知らないことを知る機会に。
- ・継続的に行っていくために, どうすればよいのか?

ICTの活用により、「見えにくいもの」が
「見えやすく」

→多様な見方, 身近に感じ,

地域の多様な資料や掘り起こした教材
の活用 →自分事として捉える

学校と大学との連携, 教育委員会との
連携 →より多角的に